

ロータリー創立100周年に寄せて
「ロータリーの新しい流れ—基本に戻ろう」

RI 元理事・パストガバナー
板橋 敏雄



[1] はじめに

RI会長代理 今井鎮雄様、第2710地区ガバナー 松本茂太郎様、RI理事 南園義一様、パストRI理事 松本卓臣様、地区大会委員長 松岡 巖様そして地区内クラブ会長様、幹事様、また地区各委員長様、本日ここにRI第2710地区の地区大会が盛大に開催されます事を心よりお祝い申し上げます。と同時に、このような素晴らしい大会において、お話をさせて頂く光栄に衷心より感謝申し上げます。

実は、このご指名を頂きましたのは、今年の初めでした。私が長い間、ロータリーを通じて、また商工会議所を通じて、そして一橋大学の10年の大先輩としてご指導を頂戴して参りました1992-94年RI理事、1993-94年RI財務長を歴任されました松本卓臣PDGから「僕の長男がガバナーを勤める大会で何か話をしてくれ」と言う御下命でした。とてもその資格はないと承知致して居りますが、先輩の御下命にはNOはないと言うことで、本日参上した次第であります。

2005年2月23日ロータリーは創立100年を迎えます。ポール・ハリスと3人の仲間が始めたこの組織が、今や全世界に拡大し、166ヶ国、クラブ数31603、会員総数1,211,723名(2004年6月30日RI公式発表)の職業倫理を重んじる実業人、専門職業人が手を結び合い、世界的平和を願って、夫々の地域社会への奉仕を続けています。

私は、2001年-03年の6月まで国際ロータリーの理事を勤めさせて頂きましたので、この経験を含めましてどの程度ご参考になるか自信はございませんが、お話をさせていただきます。

まず始めに、2005年国際ロータリー100周年記念シカゴ年次大会のお話をさせて頂きたいと思

います。私はグレン・エステス会長からシカゴ大会プロモーション委員会の国際委員を仰せ付けられました。去る4月23-25日シカゴで第1回のプロモーション委員会が開催されました。シカゴ国際大会は2005年6月18日-22日シカゴ、全米一のエキシビジョンセンターであるマコーミック・プレイスで開催されます。開会式・閉会式、本会議、ワークショップ、友愛の家等各種展示会場が一箇所で催されます。しかも会場はミシガン湖畔にあってシカゴ市内のホテルから大変にアクセスも良いところです。また、魅力のあるプログラムが沢山用意されています。例えば、☆6月18日、開会式の朝、ロータリアンとその友人達によるシカゴのダウンタウンを練り歩く、国際的親睦パレードが行われます。各クラブはこのパレードに山車を作り国旗を持って参加するよう奨励されています。また、☆世界からの各ロータリークラブ会長・会長エレクトによる、タイム・カプセル。各クラブのレターヘッドのある便箋に夫々200年に向けての夢を母国語で記入し、カプセルに収蔵する行事です。☆18日日曜日の朝には、ポリオ撲滅達成を祝って、マラソン・ウォーキングイベントが開催されます。☆魅力ある本会議における講演者CNNのテッド・ターナー氏など。私は、ロータリーの原点を訪ねる旅を各クラブ単位で計画される事をお勧め致します。シカゴは、アメリカ中央部に位置しますので、大会付属の旅行に便利です。カナディアン・ロッキーへも、ナイヤガラ、ニューヨークへの旅行、ワシントン、ウィリアムスバーグへの政治と歴史の旅等々計画されます。12月31日が第一次の締め切りですから、クラブの旅行幹事様は10月中に予定を作成して、旅行貯金を始められたら如何でしょう。海外旅行は、参加者の連

帯を強くします。ロータリーの原点を探る旅は、クラブを強化するに違いありません。シカゴ大会勧誘委員として、ロータリー100周年を祝うお話の前にお願ひ申上げました。

本日のお話のアウトライン。

- ①創立時のロータリーの原点を訪ねる
 - ②不易であるロータリーの基本的考え方に就いて、職業奉仕と社会奉仕
 - ③ロータリー運動はロータリークラブが原点である事
 - ④ 第二世紀へ船出するロータリーの展望
- それでは本題に入って参ります。

[2] 創立時のロータリーの原点を訪ねる。

(1) 創立者ポール・ハリスの予見。

1928年に発刊されました「ロータリーの創始者」の中で、ポール・ハリスはロータリーの未来に触れて次の様に述べています。

「ロータリーは今後華々しく開花するに相違ありません。創始以来僅かな年月で(23年間)43ヶ国に広がった運動は、あらゆる国に広がるまで、波のように押し寄せる運命をたどるに違いありません。全ての国に広がった時がその広がった地域を力強く耕す時なのです。成すべき事は何時でも十分にあります。人類を向上させる運動の倫理的な概念だけが、全てを包み込む概念です。ロータリーは全ての人に影響を与える運動となるまで決して自己満足しては成りません」

今から75年前に創始者は既に今日を見通して居られたのです。

(2) ロータリー誕生の背景—シカゴの街。

①1883年20世紀を目前にした時、シカゴでコロンビア博覧会が開催され、若い法律学生のポール・ハリスはバーモント州からアイオワ州へ向かう途中、約1週間をシカゴに滞在しました。その時、ポール・ハリスはアメリカ経済の坩堝であったシカゴの行儀の悪さと落ち着きの無さが醸し出す奇妙な魅力に取り付かれました。その数年後に、彼はこの遅しくて進歩的で、しかも矛盾に満ちたシカゴの町に戻って来たのです。金儲けの為ではな

く、人生を真剣に生きるためにです。

ここで弁護士事務所の看板を掲げた彼は仕事に精を出す傍ら、友人を作る事に努力しました。彼がこの地で最も欲したのは誠実な人達との暖かい触れ合いでした。やがて彼は、親しい友人3人(石炭商 シルベスター・シール、洋服仕立て業 ハイラム・ショーレー、鉱山技師 ガスタバス・ローア)とシカゴ、ノース・ディアボーン街のガスタバス・ローアの事務所でロータリークラブをスタートさせました。1905年2月23日の事です。会合を会員の事務所を持ちまわった所からロータリークラブと名付けられました。

その当時のシカゴをもう一度振り返ってみましょう。その当時、ラジオやテレビは言うに及ばず飛行機も無く、高価な自動車が見えだした時代です。経済の世界には、商工会議所も同業組合も無く、従って商売の仕方は、「商売は商売」「人にやられる前にやれ」「同業者は敵だ」という考え方が支配的でした。企業の発展競争が、情け無用の無慈悲さで展開されていたのです。活気はあるが、我利と悪意が満ち満ちていた時代でした。しかし、新しい世紀が幕を開けると、いささか変化が見え始めて来て、今まで忘れられていた良心は汚職に戦いを挑み始めはしましたが、赤貧とこれ見よがしの贅沢が肩を擦り合わせて並存し、暴力団と神、アルコールと禁酒法支持者と言ったコントラストの強い街でした。

彼は、やる気があって、しかも混迷に満ちたこの様な町にこそ、ロータリーのような社会変革、職業倫理、誠実な親睦を唱える善意の組織が根を張るのにふさわしいと思ったのでした。

②そこで、ポール・ハリスは何とか友情と商売を綯い交ぜ、そうする事によって商売も栄え、友情も深める事が出来るのではないかとアイディアを持つようになったのです。

しかし、このような背景の中で、同業者を親しく一緒に集める事の困難さを承知していた彼は、会員を各事業又は各専門職業から一人ずつに限る事によってクラブの雰囲気をもっと明るくする事に成功しました。こうして当初お互いは見知らぬ事

業者、専門職業者ではあるが商売敵を含まない会を作ったのです。

最初、人々がこの会に入った動機は、平たく言うと何か商売上うまい話があるのではないかと、言う期待が主でした。しかし、友好的で競争無用な雰囲気の中で彼らはこのクラブの特性に次第と満足すべきものを感じるようになっていったのです。生まれた時のシカゴクラブの定款は二つでした。一つはお互いが仲間になったと言う事、お互い同士が経済的な意味合いで助け合っていくと言う「相互扶助」でした。もう一つは、私達は友情のグループだから仲良くする事を大事にして行こうと言う「親睦活動」でした。

しかしこの「親睦活動」は、職業を異にする人々と知り合う機会となり、やがてその人々の間に、他の人を思いやり、助けようと言う新しいアイデアが芽生えて来たのでした。若いやる気のある会員は、報償を求めずして他人の為に何か役立つ事をすると言うアイデアに強く魅力を感じ始めたのであります。

ポール・ハリスがその著書「私のロータリーへの道」の中で書いているように初期の会員は親切な心と友好的な気持ちの発するまに良く助け合い、お互いの商売がうまくいくように熱心に努力し、必要な時はお互いの商売を最良し合い、助言はもとより取引が成功するように手を貸し合っていました。

③しかし実際には、全てのロータリアンが天使のような人ばかりでは無かったのも事実として現れてきました。ロータリアン同志の間でも最高とは言いかねる商品やサービスを最良にしてくれるように薦めるものも現れて来たのです。

そこで、より高い取引の基準を作りそれを履行する事の必要性が誰の目にも明らかになってきました。商取引においてロータリアンと言う言葉は「純正」と同義語で無ければならないと言う事になったのです。

ロータリアン即ち「純正」これこそが我々が職業奉仕と呼んでいるものの発芽でした。この芽は、最初のロータリークラブにおいて発芽したも

のであり、友情と商売を混ぜ合わせた事から生まれる必然的結果でもあったのです。

そしてその後この職業奉仕の理念は、ずっとロータリーの看板となりました。

[3] 不易であるロータリーの基本的考え方。

①「ロータリアンは純正でなければならない」職業奉仕の理念についてお話しを進めて参ります。

2002-03年度のRI会長ビチャイ・ラタクル氏は、その前年、シカゴ・トリビューン紙の一面見出しの「スキャンダルが大企業の信用を揺るがす」と言う記事を取り上げ、社会の信頼を高める職業奉仕の必要性を強調されました。エンロンやワールド・コム的事件です。彼ら悪質経営者は自分達の目先の利益の為に多くの投資家や関係者を欺きました。経済界、官界、政界に亘り広く、公の信用がひび割れているのは、アメリカばかりではありません。

ロータリアンは支持されるべき高いビジネス水準で、これまでよりも励み勤めなければなりません。100年もの長い間、ロータリアンは公正な商慣行と高い倫理基準を奨励してきました。創始者ポール・ハリスは、先ほど申し上げましたように、多様でバランスの取れた会員を集める為に職業分類システムを考案し、非倫理的あるいは不公正な商利益の追求を認めませんでした。

ビチャイ元会長は、ロータリーを際立たせるものはこの職業分類の原則だと強調されています。私たちの職業基盤が様々な事業及び専門職務から構成されているおかげで、私たちはどのような問題にも多角的に取り組む方法を選ぶ事が出来るのです。

この専門意識の強調と言う独自性はロータリーと他の全ての奉仕団体とを明確に区別するものでした。それにもかかわらず、長い間職業奉仕は見えにくいものであり、「忘れられた奉仕部門」とさえ呼ばれていました。今こそ我々はこの奉仕分野に献身しなければなりません。

ビチャイさんは、我々は自分のビジネスを再チェックすると共に、若者には職業訓練や技術

を、障害者には仕事を提供する為に職能を発揮するべきです。ロータリーのクラブ奉仕に続く第2の奉仕部門は、社会に貢献する限り無い機会を提供する事になるのですとおっしゃっています。

②昨年の10月職業奉仕月間において、マジアベ会長は「四つのテスト」を地域の職業人の間に広める事を奨励されています。

アメリカ大恐慌時代の1932年、シカゴのロータリアン、ハーバート・テラーは、クラブ・アルミナム社の経営を引き受けました。この会社は、卸売業者に製品を大量に押し付ける強引な販売方法とか、競争相手より値段を下げて最後の一滴まで利益を搾取する方法など、当時容認されていたあらゆる方法を強引に押し進めた結果、倒産寸前の状態にありました。彼は、クラブ・アルミナムの指標として「四つのテスト」を考案しました。即ち「真実かどうか？ みんなに公平か？ 好意と友情を深めるか？ みんなの為になるかどうか？」です。彼はこれに関係者全員に配布し、確実に守るように指導しました。これは社員の士気を高めるばかりか関係会社の信頼を高め、短期間の内に会社業績の向上をもたらしました。

ユーザーは、会社の提供した高品質と誠実なサービスに確実に応えてくれたのです。彼は、会社が倒産から救われ、数百万ドルの企業に変容できた事によってこのテストに確信をもちました。テラーが1954-55年度のRI会長になりましたとき「四つのテスト」の著作権をRIに譲渡したのです。

今日の厳しいビジネス環境の中で、多くのロータリアンは「四つのテスト」の妥当性に疑問を投げかけてきましたが、それでもこれら四つの質問は数十年の間、ロータリアンにとっての倫理的指針という役目を果たす事で時の試練に耐えて来たのです。ジョナサン会長が我々ビジネスマンの間に広める為には、先ず我々が実践する事によって、ロータリーが有用であり、ロータリアンが誠実に行動している事を世界に示さなければなりません。

元RI理事のエルマー・ジョーダン氏は1980年代半ば、次の様に書いています。「貴方や私が日々

の糧を稼いでいる職業奉仕の場こそ、私達がロータリアンとして評価される場所なのです。私達がビジネスや専門職でどのように行動するかは、本当に重要なことなのです」

ジョーダン氏の言葉はロータリー100年に向かう今日も真実と考えられます。私達はロータリアンとして、この公的な信頼性を高める能力によって評価される事を忘れてはならないと思います。

奉仕と言うロータリーの基本理念は、人は自分の為だけでなく、他人の為になるように誠実に他人に尽くす事によって初めて自分の幸せを手に入れることが出来るということです。ロータリーの綱領もそうですし、フランク・コリンズの提唱した「超我の奉仕」と言う第1モットーも同じ事を言っています。また、私が理事を勤めていた年度において、日本のガバナー、パストガバナーの方々からの強力な支援によって、復活出来たアーサー・シェルドンの「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」と言う第2モットーもまったく同じ事を言っているのです。2004年6月14日より6月18日にわたりシカゴで開催された規定審議会において第2モットーは「They profit most who serve best」として存続される事に成りました。2001年11月の理事会において、私はこの第2モットーの存続を提案しましたが、その時セコンドをされ、このProfitは現実的な狭義の利益ではなく、より倫理的にも高い事業者になれる事を意味していると主張されたのがビチャイ次年度会長でした。全員の賛成の中で承認された光景が今でも目に焼き付いています。

③お話の冒頭に創始者ポール・ハリスの予言をお話しましたが、その中でポール・ハリスは「このロータリーの運動は、あらゆる国に広がるまで波のように押し寄せる運命をたどるに相違ありません。全ての国に拡がった時が、その拡がった地域を力強く耕す時なのです。」

今私達がロータリー第二世紀を迎えるに当たって、このポール・ハリスの考え方は少しも変わるものではないと確信致します。我々のロータリーライフを如何に楽しくやり甲斐のあるものにするか、そ

の根源は我々の所属している地域社会を、我々の
 智恵と努力でより良く耕しているかにあると思
 います。この事を個々のロータリアンが自覚を持
 ち、着実に実行しているなら、不況による会員の減少
 など少しも心配することはないと思います。

いま、地域社会を見渡してみても、若い実業人の
 間でも、ボランティアの活動に身を挺そうとして
 いる人は沢山居ります。地域を耕そうとロータリ
 アンが熱意と創意をもっていろいろなプログラム
 を実施していれば、そしてそれを地域社会にしっ
 かりと広報していれば、有力な新しい同志をクラ
 ブへ呼び込むことが出来るのです。全ては我々の
 智恵と努力であると思います。

「この地域を力強く耕す」と言うことが即ち社
 会奉仕の理念であります。

今私たちの住む社会は特にITの発達によって、
 ドッグイヤーのスピードで変化しております。
 今まで経験した事のないような大きな社会的構
 造変革の中に居るのです。アメリカの未来学者アル
 ピン・トフラーは、農耕文明の第一の波、大量生
 産・大量消費の第二の波、そしてコンピューター
 を中心としたハイテク文明の第三の波が激しくぶ
 つかり合う時代だと指摘しています。即ち、前近
 代・近代・脱近代の三つの対照的かつ敵対しあ
 う文明がぶつかり合いながら、世界は急速に変
 化している時代と見ています。更にトフラーは、工
 業文明の支配が衰え、新しい勢力が誕生する。新
 しい富を作り出すシステムが出来上がってくる。
 先ず情報知識の交換が無ければ富は作り出せな
 い。従来の生産の要素であった土地、労働、原材
 料、資本に代わって、知識が重要になると言っ
 ています。まさに時代は大量生産・大量消費の時
 代から、多品種少量・高付加価値の時代に移り
 変わっています。日本経済10年の空白と言われた
 のも、マーケットの中心が従来の生産者から消費
 者に入れ替わった大きな変化に社会構造の変革が
 十分に対応し切れないで居たことによると思
 います。

さて、このような大変革の中で、ロータリー
 に何が求められているかを考える事は大事な事

あります。しかし、その前に、ロータリーとは何
 か。ロータリーの伝統形成期に考えられていた事
 は何であったか。ロータリーに何が出来るかを明
 らかにしておく必要があると、国際ロータリー第
 2590地区パストガバナー津田 進様は強調されて
 います。津田パストガバナーは、大変分りやすい
 例を挙げて、ロータリアンの考えるべき基本の視
 点を明示されています。

一個のりんごを囲んで三人のロータリアンが
 座っている。このりんごを自由に取れば、力の
 強いものか、すばしこいものが一個丸ごと取る
 でしょう。いや平等に分けなさいと言えばしぶし
 ぶナイフを取り出して三つに切り分けるでしょう。

人は誰でも自由を欲します。しかし自由を欲
 しているものは自分だけではない。人間誰しもが
 自由を欲しているのです。だとすれば、自分の自
 由は他の人の自由によって限界付けられて居る事
 に気づかなければなりません。そこで自由を自分
 の側からのみ考えるのではなく、他人の側から
 も考え、さらにこの事を他から強制される制約と
 受け止めずにむしろ積極的にこういう自由の限界
 こそ人の人たる所以であり、人は孤立しては生き
 られないと言う人間の弱さに対する自覚を生んで
 行ったら如何でしょうか。人間の本質的弱さを明
 確に自覚した境地を利己と利他の調和と呼ぶの
 ではないでしょうか、と津田パストガバナーは結
 論付けられています。

ロータリーは一つの人生哲学であり、それは自
 己的欲求と他人の為に奉仕をしたいと言う感情の
 間に常に存在する矛盾を和らげようとするもので
 ある。この社会奉仕の原点を変化の激しい時代に
 こそ我々は堅持しなければならないと思
 います。

Back to the Basics の変化の激しい環境の中
 であるだけにロータリーの基本に立ち戻って我々
 はどのように考え行動すべきかと言う点に焦点を
 置いてお話を進めて参りました。新しい世紀に向
 かって、ロータリーはより多くの行動を求められ
 ています。後半は我々ロータリアンとして地域社
 会の要望に応え、やり甲斐のあるクラブライフを
 エンジョイしながら高めていくかと言う事につ

て実例をご紹介します。進めて参ります。

**[4] ロータリーの運動はロータリークラブが原点
 であると言う事。**

①「手を貸そう」という年度テーマを掲げられ
 た、前年度RI会長のジョナサン・マジアベ氏は、
 先ず「あなたのクラブに手を貸そう」と言われて
 います。会員組織の強化を助けていこう。クラブ
 の全会員に対して、彼らがクラブとして重要な貢
 献をするのに無くてはならない存在である事を感じ
 させましょう。会員による組織維持に力を集中
 してください。その為に、会員の福祉に関心を示
 し、病気やその他の理由で悩んでいる会員が居れ
 ば、暖かい援助の手を差し伸べて元気づけてやっ
 て下さい。と仰っています。これは大変に大事な
 事です。我々は同じクラブの会員のことをどれだ
 け知っているでしょう。なお、会長は亡くなった
 会員の配偶者には絶えず親身になって接し、彼ら
 がロータリー家族の一員として留まってくれるよ
 うに配慮してくださいと強調されています。

②2002-03年度の会長であったピチャイ・ラタ
 クル氏は、「慈愛の種を蒔きましょう」と言うテ
 マを掲げられました。そして慈愛の種を何処に蒔
 くか?どのように蒔けば効果的か?と言う設問に次
 の様に答えています。

良いクラブの親睦とは、会員同士が相手に対し
 て示し合う慈愛と関心の上に成り立つものです。
 貴方は、同僚ロータリアンについてどれだけ良
 く知っていますか。もっと良く知ろうと努めましょ
 う。相手の家族の事、仕事の事また相手の希望や
 夢についてもっと学びましょう。貴方のクラブに
 暖かい歓待の雰囲気があれば、専門職や管理職の
 新会員を引き入れ、巻き込んでこの人達を活性化
 することが出来るのです。ロータリーの第一奉仕
 部門である強力な基本原則を復活させる事によ
 って、ロータリーはその原点に立ち戻る事が出来
 るのです。と言っておられます。

③2002年の2月アナハイムの国際協議会でピ
 チャイ会長は大変に感動的なお話をされました。
 私は現任の理事としてその場におりまして、私の経験

に重ねて、ロータリアンが本当のクラブ会員にな
 るのは、そして、クラブ活性化の原点は、まさに
 この感動であると大きな共感を覚えました。会長
 は、入会3年後のご自分の話を次のようにされた
 のです。

ある週末の金曜日の夜、トンプリRCの当時の
 会長から、クラブが計画している日曜日の孤児院
 の子供達を海岸に連れていく行事で、一人欠員が
 生じたので、是非車を出して参加して欲しい旨の
 電話を受けました。当時ピチャイ会長は、余り熱
 心なロータリアンではなかったのに、理由をつけ
 て断りました。その後、再三にわたり会長から貴
 方が参加しないとこのプログラムが中止になるの
 でと熱心に誘われたそうです。とうとう根負けし
 て、日曜日車を出して参加しました。

そうしたら、孤児の中でも一番顔つきの悪そう
 な子供が会長の車に乗ってきました。最初は嫌な
 感情をこらえて面倒を見ていましたら、夕方帰る
 頃になってこの子は自分を必要としていると言
 う感情が変わって来ました。孤児院に着いてもな
 かなかその子は会長の傍を離れようとしません。
 そして「もしも貴方がパパだったら良いのに」
 と言い残して走るように建物に入っていったと言
 うのです。暗闇の中で感情が込み上げて来るのを
 押さえられなかったとおっしゃいました。私はそ
 の時初めて奉仕の感動を経験したのです。それま
 で、会費を納め欠席も無くロータリーに出席して
 いましたが、心はロータリーに入っていなかった
 と述べられました。

ピチャイ会長は、これをロータリー・マジック
 と呼んでおられました。もしもあの時の会長が二
 度三度電話をされずに、私にこのロータリー・マ
 ジックを経験させてもらえなかったなら、私は今
 全世界のガバナー・エレクトの前に会長エレクト
 として立ってはいなかったろうと結ばれました。

④国際ロータリー会長は同時に強い指導性を求
 められます。これは、ロータリーのようなボラ
 ンティアの組織においては、地区においてはガバ
 ナー、クラブにおいてはクラブ会長とその人柄か
 ら滲み出るようなパーソナルな指導力が求められ

る事は皆様もご理解いただけるものと思います。私は国際ロータリー理事として、お二人の会長にお仕えいたしました。そのお二人のリーダーシップの差にロータリーの多様性を実感いたしました。2001-02年度の会長リチャード・キング氏は、アメリカ人らしく、リーダーシップを「鷲」に例えられました。鷲は天高く飛揚し決して群れを作らない。高い天空から強い指導力を発揮するのだ。とガバナーの指導性を細部に亘って指導されました。

それに比して、2002-03年度のピチャイ・ラタクル会長は、東洋人、特に仏教国タイのご出身であったので、草の根のロータリアンをやる気にさせる指導力を謳い上げられました。指導者はパレードの先頭にたってバトンを振るのではなく、羊の群れを統率する羊飼いきながら互いに協力し合い、時には群れの中に入り、また回りを歩いたりするのです。今後一年間、クラブを下から積み上げるように、ボトムアップ方式で充実させる事が私達の指導力なのです、とガバナーエレクトを前に閉会のご挨拶をされました。

2003年4月ピチャイ・ラタクル会長の福岡～東京～仙台～札幌～青森と日本縦断インターシティ・ミーティングが盛大に開催されました。私はその全会場をエイドとしてお供を致しました。

4月25日最後の青森会議には全国のバスターガバナーや各地区青少年交換委員会の委員長や近隣のロータリアン800名が出席していました。その歓迎会の席で、会長は、私はあと2ヶ月でRI会長職を終わるが、そしたらバンコック、トンプリRCの1会員に戻り、会長に頼んでSAAでも何でもやらせてもらおうと結ばれました。スタンディング・オベーションが5分経っても鳴り止みませんでした。クラブが原点である事の証明でした。私はピチャイ会長こそ世界最高の草の根ロータリアンだとその時確信しました。

⑤次に、少し気が引けますが私の足利東RCの事を話させて頂きます。私のクラブは3年前2001-02年度のRIが進めるロータリークラブの為の新モデルの試験的プロジェクトに参加しました。創立

後40周年記念式典も終わり、新しい船出と思ひ、当時の会長及び理事会に図り全員賛成の中で、新定款を作りRIにより受理されました。日本では、我々の他に第2770地区の春日部RCと第2750地区東京高輪RCの3クラブだけでした。私たちは例会は毎週開催し変化させませんでした。但し今後若い会員（仕事の為日中の時間を作りにくい）の為に考慮して最低の出席義務を60%から50%に引き下げました。また最終例会を夜間7時より9時までとしました。その上、委員会活動を盛んにする為に、理事会の承認で活動的な委員会（WCS、インターアクト、ロータリーアクト、国際奉仕、新世代等の炉辺会合委員会）への出席は正規の出席にカウントするようにしました。

これにより会員が2001-02年度15名入会し、ゾーン1でNo.1となりました。2002-03年度においては、会員も増加しましたので、今までいくらお願いしても出席出来なかった会員が5名おやめになりました。そして2003-04年度に入り、会員増強委員会は3回会合をもち、未充填の職業分類のところ予定者を挙げ、会長を含め3人（女性会員が入ると話が和やかになって尚良い）で候補者の自宅訪問を行いました。その時、非常に効果がありましたのは「ロータリーの基本知識」(¥60)というRIが出した日本語版の小冊子です。今年の最新版をお持ちしました。既にご利用になっていらっしゃるクラブもおありと存じますが、ロータリーの歴史から世界中の各クラブの奉仕状況が写真入で説明されています。この小冊子を持って候補者の自宅訪問をし、奥様にも参加してもらって説明しました。

その結果5名の新会員が入会され、元に戻りました。10月第1例会で入会式を盛大に実施しました。2004-05年度は5名入会を予定しています。

今、足利東ロータリークラブは、活気に満ちています。その理由を幾つか申し述べて見ます。

1. 委員会活動が盛んな事です。WCS委員会は、フィリピンのマニラ・メトロRCと姉妹クラブを結び、ここ2年間に春秋と2回無料医療奉仕と低所得層への援助物資の配布、孤児院へのミシ

ンや掃除道具の援助等、毎回10人以上の会員が自費で奉仕事業をやっています。その中心ロータリアン中谷医師は、この事が評価され「超我の奉仕賞」を受領しました。

2. 新世代委員会は、ロータリーアクトクラブを一つ、インターアクトクラブを二つスポンサーしています。何れのクラブの会合には必ず委員会委員が出席しています。国際奉仕委員会では、アメリカとオーストラリアに夫々姉妹クラブを持ち、隔年で2-3名3週間の学生交換をクラブレベルで実施しています。この他小・中学生野球ナイター大会の主催等地域社会への奉仕事業は目白押しです。全員が各委員会に所属し面白おかしくやっているのです。

3. 70名の内、女性会員が10名居りますが何れも元気一杯まじめに勤めています。会員間の評価も高く、足利東RCでは、クラブ幹事、出席委員長、国際奉仕委員長、会報・広報委員長、ニコニコボックス委員長と5名の女性委員長が活躍しています。これら女性会員は全て職業分類を正規に満たしております。

4. これらを総括してみますと、彼らは必ずロータリー・マジックを感じているから楽しみながら奉仕の事業に参画して居るものと思います。創始者ポール・ハリスが言われた素敵言葉があります。「ロータリーとは何ぞや」と言う議論をしても中々結論には達しない。むしろ「ロータリーは何をしているのか」と聞いた方が話が判りやすい。社会奉仕でも国際奉仕でも新世代奉仕でも我々が元気にやっている仕事を示してこれがロータリーだと言った方がはるかに判りやすいと言うのです。

[5] ロータリー第2世紀への展望。

私達は、2005年の100周年を記して、ここ20年の長きにわたりポリオの撲滅の為に最大の努力をして参りました。国連を動かし、WHOやUNICEFと共に、ワクチンの供与だけではなく、ポリオ発生国へのNID国民一斉投与日の普及に協力し実に驚異的な成功を納めつつあります。仮に

根絶は出来なくても、発生ゼロの状態を継続できれば、ロータリーの輝かしいロータリー第1世紀の成果と言えると確信します。

私達は、本来21世紀の世界は、20世紀後半において我々が積み上げてきた平和と新技術によりわくわくしながら新しいフロンティアが開けるんだと言う新世紀を期待しましたが、9・11の同時多発テロを契機ににわか暗転しました。テロに対する攻撃がアフガン更にイラク戦争に発展し、未だに戦火と不安の中に世界が置かれています。

ロータリーは、世界理解を推進する事で真の恒久的世界平和を実現する事を目的とした全世界の歴史において、最も重要な非営利、非政府、非宗教の組織であります。

今国際ロータリーが推進している「国際問題研究の為にロータリー・センター」は、ロータリー財団が取り組んでいる非常に意義深く、革新的な活動となるでしょう。今世界中に蔓延している地域間、部族間、国家間の紛争解決の為に新しい指導者を育成する事は今世紀の最重要課題となるでしょう。

世界の中から、平和と紛争解決に関連した独自の国際問題研究の独自のカリキュラムを持つ8大学が選ばれ、世界529の各地区から1名推薦された意欲ある優秀な学生が世界コンペにより70名選考され、2年間修学するのです。日本からは、アジアからただ一つ国際基督教大学が選ばれました。この奨学金として一人2年間で5万ドルが必要になりますが、ロータリー財団ではこの資金を各地区のDDFからの拠出を要請しています。日本の国際基督教大学には一昨年9月より8名の学生が、そして昨年9月からは、9名の世界からの学生が平和研究に没頭しています。

この世界平和奨学生は、調停と紛争解決の手法により国際平和をもたらす努力をし、国際的軋轢のある所には、話し合いによる理解を、飢餓のある所には食料の確保を、病気の蔓延する所には医療を、非識字の人々には教育を、環境破壊のある所には環境保全を、貧困のある所には維持可能な経済的発展を実現する為に各種の研究をマス

ターします。

2004年6月の国際ロータリー理事会は、2010年を見越したRIの抱負を次の様に声明しました。

「ロータリーは」

1. ポリオの撲滅におけるその指導力と成功に対し認証を受けるものである
2. 世界各地において強力かつ際立つ存在感を持つものである
3. 会員全員が多様性を持つ強力な組織を通じ、友情と奉仕活動の能力を高め、達成するものである
4. 奉仕に結ばれた会員を通じて高い道徳的水準、国際理解、友好及び平和の理想を推進するものである

[6] 結びに

いろいろ申上げて参りましたが、越し方をしっかり心にとめて、現在を如何に元気良く過ごすか、そして21世紀のロータリーの方向について、お話を進めて参りました。

私は以前、富士通の本社に山本卓真相談役をお

訪ねした時に、「夢をかたちに」と言うお話を伺いました。その後私はこの言葉を座右の銘にしています。

山本様に伺いました。「夢を形にする為には、事実多くの痛みを伴う事がある。そしてそれに耐えて行くには、強靱な上昇志向が不可欠だ。」今私達は大きな夢を持ち、現実とのギャップのなかで、例え大きな困難があろうとも、それを乗り越えていく強靱なバネが要求されているのだと思います。

1930年シカゴの大会で、ポール・ハリスは次の様に言っています。

「私の知る限りでは、ロータリーは“出来る” “出来ない”との葛藤で、“出来ない”が永遠の勝利を収めたことは一度もありません」「広大なビジョン・崇高な目標は必ず勝利を収めるのです」

皆様、輝かしい国際ロータリー第2世紀に向けて力強く船出をしましょう。

ご清聴有難うございました。

板橋敏雄 略歴

生年月日	1931年(昭和6年)1月17日
最終学歴	1953年3月 一橋大学商学部卒
ロータリー歴	1962年4月 足利東ロータリークラブ入会 1973~74年度 足利東ロータリークラブ会長 1987~88年度 RI255地区(栃木・茨城)ガバナー 1992~94年度 ロータリー財団ゾーンコーディネーター 1993~96年度 ロータリーの友委員長 1995~96年度 RIコミュニケーション委員会委員 1995年・1996年 国際協議会グループ・ディスカッションリーダー 1996~97年度 RIゾーン・トレーニングリーダー 1999~2000年度 RIAアジア問題委員会委員 2000~01年度 RIAアジア問題委員会委員長 2001~03年度 国際ロータリー理事 2003~04年度 2004大阪国際大会チーフ SAA 1996~2000年 5回の国際大会 SAA 1998~2000年 3回の国際協議会 SAA 1995・98・2001年 3回の規定審議会 SAA 2004~05年度 2005年シカゴ国際大会推進委員 ロータリー未来委員会委員・地区編成委員会委員 会員増強・退会防止委員会委員 ポリオ・プラス日本担当顧問
公 職	1974年以降 栃木県塗料商業会会長 1986年以降 日本塗料商業組合常任理事・経営委員長 1992年以降 足利市国際交流協会会長 1993年以降 足利商工会議所会頭 2004年 栃木県経済同友会代表幹事
職 歴	2001年4月 栃板通 代表取締役会長 勲四等瑞宝賞 受賞